数学 科目 数学C 高等学校 令和7年度(2学年用) 教科

単位数: 2 単位 教 科: 数学 科 目: 数学C

対象学年組:第 2 学年 B 組 C 組 D 組 G 組

 教科担当者:
 (B組: 高田)
 (CD組: 高田)
 (G組: 高田)

 使用教科書:
 (高等学校 数学C (数研出版)

)

教科 数学

の目標:

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【知 識 及 び 技 能】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 【思考力、判断力、表現力等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 【学びに向かう力、人間性等】

科目 数学C の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的に概念や原理・法則を体系的に理解すると ともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数 学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	等元、ペラトル ア 次のようた知識及び技能を身に付けること。 ・平面にカベラトルの選挙、相等、和、差、実版信、位置ベクトル、ベ ウトルのの成者表でについて理解すること。 ・ベラトルのの情報及びその基本的が性質」を全体に付すること。 ・ベラトルのの情報及びその基本的が性質」を全体に付すること。 ・ストルンの機能及びその基本的が性質」を全体に付すること。 ・実数などの機算の注明と関連付けて、ベクトルの機算法則を考察する こと。	- 指導事項 平面上のペクトル、ベクトルの演算、ベクトルの成分、ベクトルの 内積、位置ペクトル ・ 教行 セン表別で、(銀行出版) ・ インロンス 2047 - 一、大1 台端本の括用 等	[知識: 大接型] 一発組上のベクトルの意味、相等、和、差、実教信、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について開発するともに、実数などの開業の法則と関連作けて、ベクトルの消費法則を参索すること 「思考・判断・表現」 ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解すること	0	0	0	12
	定期考查			0	0		1
	単元 ベクトル ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 ・ 佐陽及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解する こと。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ・ ベットルやその内積の高本的な性質などを用いて、平面図形や空間図 がの性質を見いたしたり、多面的で新数したりする。 ・ 数量や観形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象など を数学がに発え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用すること	・指導事項 ベタトルと図形、ベクトル方程式、空間の座標、空間のベクトル、空 開ベットルの成分 ・数材 4プロセス製金で(数研出版) 4プロセス製金ノート数学に(数研出版) ・一人1台海末の活用 等	【知識・技能】 原標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解すること 「思考・判断・表現】 ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解するとともに、ベクトルやその内積の基本的が性質と見いだしたり、多面的に考察したり すること	0	0	0	12
	定期考查			0	0		1
	東元 ベクトル ア 次のような知識及び技能を含に付けること。 ・ 定職及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解すること。 こと。 と、 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ・ ペットルやその内積を基本的た性質などを用いて、平面関邦や空間関 が直接を製いてしたとこの関係に着目。」目常の事象や社会の事象などを放予的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用すること を数字的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用すること。	・指導事項 空間ペクトルの内積、空間ペクトルの位置ペクトル、空間ベクトルと 空間、対象をである方式、直線の方程式 ・教材 4プロセス数数と、後続出版) 4プロセス数数と一ト数字に、数続出版) 人1台藩未の活用 等	【思考・判断・表現】 ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、空間図形の性質を見いだしたり、多面的 上書館にたりることに は、一書になります。 は、 は、 は、 は、 ないで、 で、 で、 で、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、	0	0	0	18
	定期考査			0	0		1
学	単元 複素軟平面 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 経療教学面 健素軟の極形式、複素数の実験倍、和、差、積及び高のな意味と理解すること。 ド・モデブルの定理について理解すること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ・ 指表験中面に対ける関係が移動とと関連付けて、複素数の演算や思修根皮との意味を考察すること。 - 日常の事象や社会の事象などを数学的に提え、コンピュータなどの情報機器を用いて曲線を表すなどして、据介索数や極度標及び複素軟干価の考えを問題機能に活用したり、解決の過程を展り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	・指導事項 機素整平組 機素整の極形式と素法、除法、ド・モアブルの定理、複 素数と返形 ・数付 ・数付 ・数付 ・数付 ・数付 ・数付 ・数付 ・数付 ・数付 ・数付	[知識、土技能] 復業終平価と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解す ド・モアブルの定 国ニニハンで開始すること 【思外・判断・表現】 経常報年面における限形の移動などと関連付けて複素数の演算などの意味を考索すること 【主た時に学習に取り組た機能】 経業製年面における関係の移動などと関連付けて複素数の演算などの意味を考索すること日常の事象 や社会の事象などを製等的に提え、コンピュータなどの情報報整を用いて曲線を表するとと日常の事象 で社会の事象などを製等的に提え、コンピュータなどの情報報整を用いて曲線を表すなどし て、銀ケ業数や機能度が複雑数率の多くを問題がに活用したり、解決の過程を築り 返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること	0	0	0	18
	定期考査			0	0		1
3 学期	第三 複素数平面 ア 次のようた知識及び技能を身に付けること。 ・複素数甲面と提素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の な意味を握解すること。 ド・モマアルの定性について理解すること。 イ 教なおどの必要性について理解すること。 イ 教なおどの表現を対していて理解すること。 イ 教なおとの事故をとしていて理解すること。 ・目前の事象や社会の事象などを数学的に扱え、コンピュータなどの情報機器を担いて無確を支柱などに、銀冷変数や機能及び需要率面の の考えを問題解除に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的 な特徴や他の事象との関係を考なしたりすること。 返って事象の数学的	・指導等項 機器幹平面、推索軟の極形式と張法、論法、ド・モアブルの定理、複 素数と図形 および新習 ・教材 4プロセス製学に(数研出版) ・一人1台藩木の信用 等	「知識・技能」 経業幹平面と提業数・権形式、複素数の実数倍、和、差、積及び高の関係的な意味を増解すること ド・モアブルの定 周について理解すること 【思秀・刊断・表現】 展業業年間には30周折の移動などと関連付けて複素数の演算などの意味を考索すること 【主体的に呼音にあり離りを動か。 【主体的に呼音にあり離りを動か。 生物を対して、悪味地の変数と多数であります。 が出会の事象とを数分が、足よ、コンピュータなどの情報報告を用いる。 成立て事象の数学的な特徴で他の事象との関係を考察したりすること	0	0	0	14 合計 78
	定期考査			0	0		